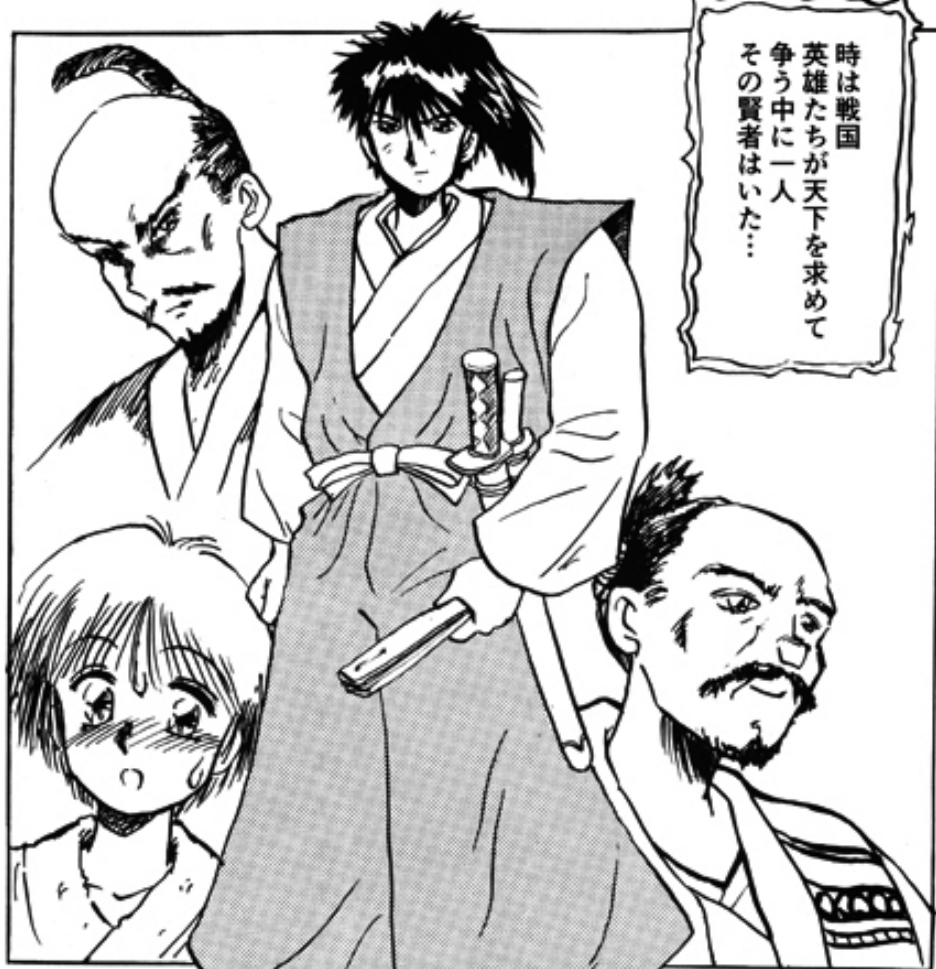


ときは今

あめが下知る五月哉

- 鈴木カナメ -

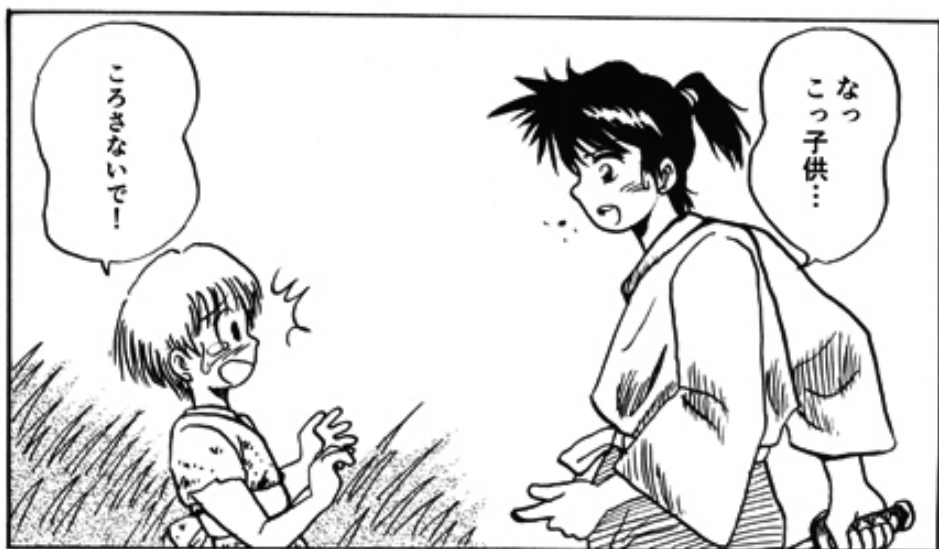
時は戦国
英雄たちが天下を求めて
争う中に一人
その賢者はいた…





なっなんだ
この光景？

よりによって
農村で
合戦したのか？



なっ
こっ子供…

ころさないで！





フンッ
あの男だけは
わからぬ

戦に必要な兵法を
一通り身に着けて
おるくせに
農地の問題や
橋建ての建造
などといった
侍に不要な
ことばかり
やりくさる

そして何かにつけて
この私に意見しよる
どこで学んだかわからぬ
上っ面の理論を並べ立て
私の政治にケチをつける

殿…
ですが
農地の
充分な開発が
国を富ませ
したいは
天下とりを
早めるのです

あのような
変人
ほって
おきましょう

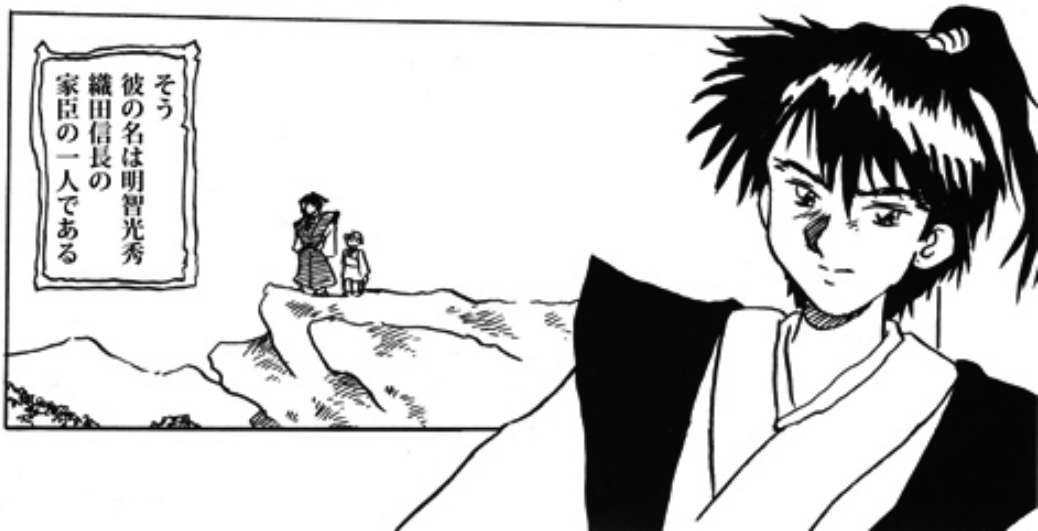
このサル…
秀吉とは
対照的だな

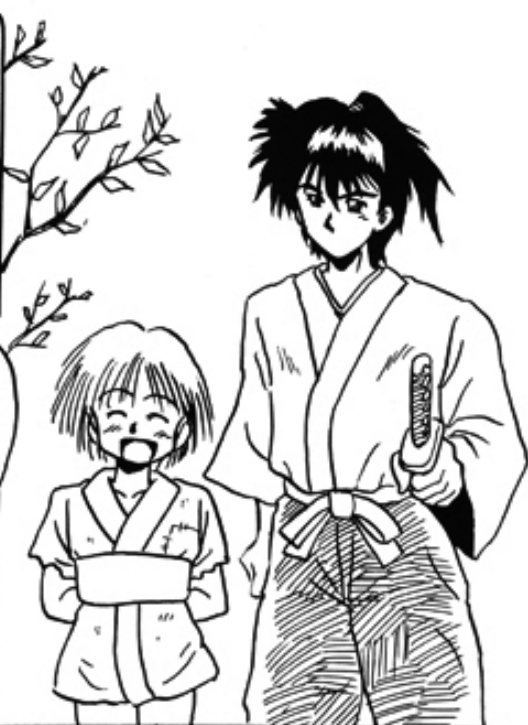
だが
並外れた才能は
惜しい
いづれなにか
圧力をかけて
奴を完全に
屈服させねば



ニヤッ

そう
彼の名は明智光秀
織田信長の
家臣の一人である





尾張の一大名から本州をほぼ制圧する大名にのしあがった。人を人と思わぬ戦第一の性格は、無骨者には好かれたが教養人たちにはけむたがられた。

わたしね
侍に家を焼かれて
両親も殺されて……
それで侍って聞いただけで
憎らしい気持ちになってた
でもおにいちゃんはなんか
そんな侍とは違うよ

確かに俺は侍向きではない
武勲・名声なんかより
この日の本の平和と富を
願っている

こんな子を
増やさないために
……

おんや

むにゃ

坂本城

富国のためには
まず国を統一し
中央で政治を行うこと
そのためには
乱世をまとめる天下人を
擁立することだ
たとえそれが
いかなる人物だろうと

当時
信長方についた武将の中には
彼の魅力ではなく
「天下布武」という
キーワードにつられて
ついていった武将が多かった
竹中半兵衛、徳川家康
のちに裏切った浅井長政などが
いい例である



わあっ♡

私こんな着物
着たことないよ



当時、羽柴秀吉、水呑百姓の息子から大出世した。しかし、出世後は農民には冷たかったようだ。成り上がりのコンプレックスからか、ハデ好きであったらしい。



武將解説

徳川 家康

江戸幕府三百年の天下太平を築いた三河の大名。明智とはある程度仲が良かったようである。ちなみに本作の探訪りのエピソードは、某少年漫画のオマージュです。



のちに幽斎。光秀とは昔からの盟友で血縁関係もあった。また光秀とは茶の湯など互いに教養を研ぎ澄ましあった仲でもある。山崎の合戦ではお家のためか秀吉についた。



少しはこたえたか
光秀よ

戦人としては
有能かも知れないが
人を人と思わぬ外道が
決して俺は
貴様に畏れて
屈しているのではない

光秀殿…
何か殺気が
感じられますよ

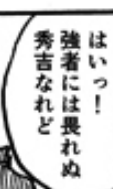
イヒヒッ

この秀吉が
悩みごと
相談にのって
あげましょうかあ

信長様…
お助けを

こわい
こわい







秀吉の軍師としてその名を轟かせた名將。個人的には信長を嫌っていたともいわれる。



私は無益な命は
うけません



信長の小姓。美少年。明智はかなり毛嫌いしていたらしい。
自ら小姓としては異例の五万石を持つ。



明智光秀の一家来。以前、稲葉一鉄に仕えていたが離反。光秀の体を張った手助けにより救われた。春日局の父。

信長の戻れという命令に拒否。



何事だ？
ゆめっ！

まやあちあち!!



な!!



だっだれに
だれに
やられたっ？

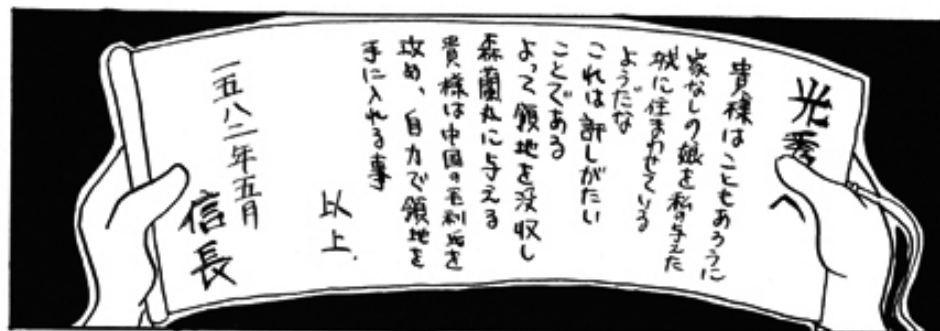
...わかんない
けど巻物を
置いて
いったわ



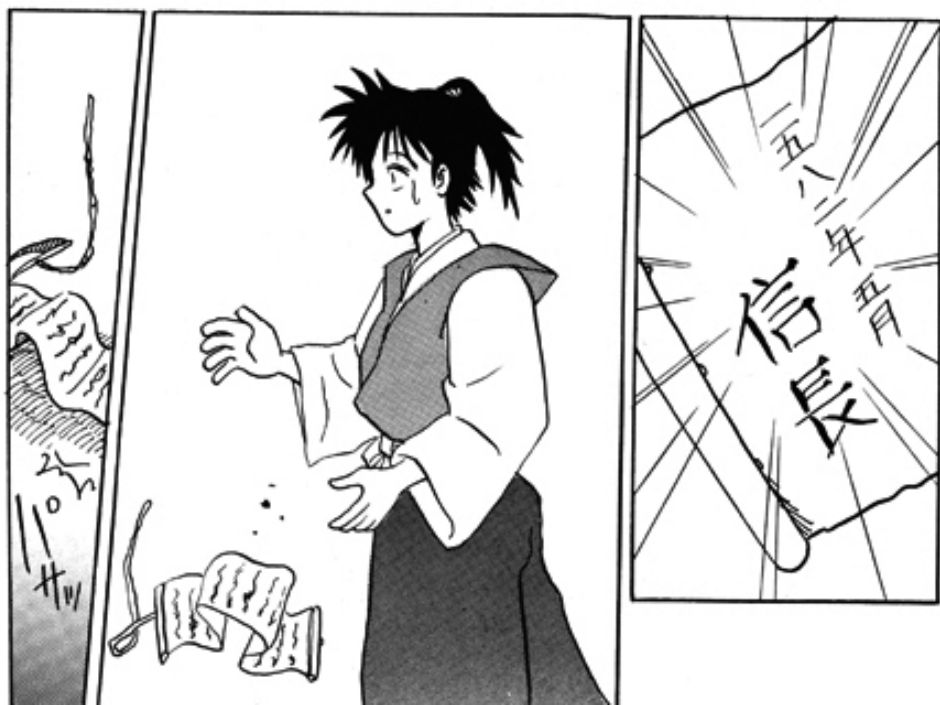
おっ...
おにいちちゃん



大丈夫
...か？



後に国継。明智光秀の配下。本能寺では森蘭丸を斬り、
信長に「太刀浴びせた。」



丹波八上城城主。龍城後信長に騙され命乞いに誘降するが、弟秀尚と共に隙にされ殺された。怒った波多野家臣は、人質の光秀の母をなぶり殺した。



罪なき
女子供を
平気で殺害する
などと…



あんな人間に
天下をやれば
必ず日本は
壊滅する



そうだ：
あの男の
頭の中は
戦一色
天下をとった後は
朝鮮・明を制し
さらには
世界を望むだろう



そしてそのたび
この子のような
悲しい目にあう
人間が増えるのだ



…他に誰か



天下をとるべき
逸材は
この日の本には
いないのか？



近江の大名。信長の妹・お市と政略結婚し、一時尾張と同盟を結ぶ。しかし実父・久政の朝倉家への義理立てから、やむなく信長に敵対し敗北する。

補足

「とき」は明智の先祖の守護大名の「土岐」を、「あめが下知る」は「天下を知る」ととることができ、つまりは、「土岐は今天下知る五月なり」となる。

考えた事など
なかったが……
かくなる上は
この光秀自身が
天下をとって
この国を
守るしかない



……あんな男に
この日の本は
決して
渡しはせぬ

彼の最後に詠んだ句
「ときは今
あめが下知る五月哉」は
一見雨の風情を
歌ったかのようだが
その実、彼の天下人への決意が
はっきりと示されている



あつぱれ
この信長を
ここまで
追い詰めるとは

明智光秀の
軍と思われませう

是非に及ばず

やはり
あの男か…

一五八二年に
おこった
本能寺の変は
信長の自刃によつて
幕を閉じた

十一日後
山崎
天王山

周りの民家に火をつけ
あぶりだす腹か
…秀吉

確かに戦法としては
いい手だが…

それでも
ぬしは
農民の出か…?



農家のこせがれの時より
夢みし天下

どんな屈辱も貧困も
俺はこの日のために
我慢してきた

こんな夢
名門出の光秀には
わからんだろうがな

できることなら
農家にでも
生まれたかった
田畑を耕し
明日を夢見て
生きていたかった
せつかく築いたものを
壊してまわるような
こんな破壊者には
なりたくなかった



裏切りの男。將軍足利義輝を殺し、さらに信長に謀反を企てるが敗れる。
名物茶器「平蜘蛛」と共に爆死。

光秀様：
細川殿が
援軍要請を
断ってきました

…そっ
そうか



秀吉の軍勢四万
対する明智勢はたったの一万六千
さらに内通していた細川藤孝、筒井順慶に
秀吉方につかれ万事休す
武力では若千秀吉を上回る光秀であったが
兵士の歴然たる差がこの合戦の勝敗の行方を決めた
かくして
光秀は山城・小栗栖へ落ちのびていった



おにいちゃん
もういいんだよ
もう戦わなくても



この辺りに住む
農民か
やられる前に
やろうってことか
…ならばっ!



うあああ
あ



光秀は落ちのびた村落で
皮肉にも今まで
陰ながら手助けしていた
農民たちの手によって
殺された

しかし、彼の死に顔は
野望を達し得なかった
苦悶の表情ではなく
目的を達し得た
やすらぎの面もちであった





藤孝様

光秀殿が
小栗栖にて
討ち死になされました



…そうか

すまぬ光秀
貴殿とは無二の仲
本来なら助太刀するのが
武士の義



…しかし
今の私は
多くの家来を持つ城主
昔のように
無鉄砲なことは
できないのだ

光秀…
あの頃を
覚えているか
おぬしは相変わらず
一本気であったなあ



のう
藤孝…

互いに将来は
城主になろう

ふふっ
われらがか？

そうだ
俺たちなら
この混沌とした今の日本を
太平の世に
変えることができる

…藤孝
そのときもまた
友でいてくれよ

もちろんだとも
おまえほど心の合う者は
この国にはおらぬからな
はははっ

すまぬ…
許してくれ
光秀！

藤孝は山崎の合戦後
名を幽斎と改め
断髪して僧となった

明智 光秀

彼の天下はたった十一日間であったが、この本能寺の変がのちの三百年続く天下太平を築いた徳川家初代家康の天下統一するまでの奇跡的な道のりの第一歩となったということ史実に明らかである。

